

2016/8

リサーチ

No.124

通巻
181

平成28年8月4日

発行者
北海道公民館協会
会長 川上 満
〒060-0002 札幌市中央区北2西7
かでの2・7 (9F)
道立生涯学習推進センター内
011(271)2825

地方創生と人づくりについて



北海道公民館協会 会長 川上 満

受けして一年が経過いたしました。

役員の皆様をはじめ会員の皆様に温かく支えていただき厚くお礼申し上げます。

昨年は第五十九回の北海道公民館大会が恵庭市で開催され道内各地より多数の参加のもと盛会裏に終了できました。

また、昨年度は文部科学省の「地域活性化コンファレンス事業」を当協会が受託を受けて全道四ブロックで開催され「学び」を通じた地域課題解決の方策を考え合いながら、絆づくりと活力あるコミュニティの形成を目指して取組んだところです。多くの皆様にご協力を賜り感謝申し上げます。

さて、近年は出生率の減少や高齢者の増加、核家族化による人口構造・家族構成の変化に銜え、女性の社会進出による共働き世帯の増加によって地域内での人々の関わり方が変化してきました。

また、社会環境の変化に伴い、防災・防犯・子育てや介護などの地域課題も多岐にわたっています。そのような地域課題を解決するた

めには、行政が対応する「公助」だけでなく、地域住民同志で助け合う「共助」の他に、行政と住民それぞれの役割をお互いに補充し合う「協働」が求められています。

地域と行政のお互いの強みを生かし、協力、連携し合う「住民と行政との協働のまちづくり」が求められています。

その町づくりのコーディネート役として、さらに「公民館の存在感を高める」ことが必要であります。単なる集いの場、単なる学習の場にとどまらず、それぞれの地域で住民が求める活動が積極的に展開されて、初めて公民館の必要性が実感できます。

公民館には、人と地域をつなぎ、結ぶ力があります。地域としっかりとつながっている公民館が元氣であれば、その地域も元氣になります。町づくりは人づくりが原点であります。

いま、地方は人口減少、少子高齢化という大きな課題に直面し、国ではまち・ひと・しごと創生法並びに創生総合戦略が制定され我が国全体で地方創生が取組まれています。地方創生の基本的な考え方は地方

創生は「ひと」が中心であり地方で「ひと」をつくり「ひと」が「しごと」をつくり「まち」をつくることになります。

また、昨年、新しい教育制度の改革により首長と教育が密接に関わることとなりました。

当協会では本年度の総会で新たな専門部会として「首長部会」を立ち上げ、その最初の「北海道公民館協会市町村長等研修会」が開催され多数の参加のもとに地方創生と社会教育のあり方について研修され全国の模範となる取り組みがなされました。

今後とも、さらに拡大の輪を広げ各市町村の連携と絆を強め元氣な北海道への足掛りとなることを願っています。

結びに北海道公民館協会が果たす役割は大きく、その一翼を担うことができるように役職員一同、一層の努力をしてまいりますので、会員の皆様のご理解とご協力を賜りますようお願い申し上げます。



全道公民館職員 研修会開催

北海道公民館協会主催による、全道公民館職員会が去る七月七日札幌市内「かでる2・7」で、約四十名の関係職員参加のもと開催されました。

開催の目的につきましては、地方創生が強く求められている中、公民館活動を通じた「地域社会の問題解決」や「地域における就業機会の創出」など、公民館における様々な取組が期待されていることから、公民館を担う、社会教育主事・公民館主事の資質向上を目指す内容として次のとおり開催いたしました。

一 行政説明

「障害学習における公民館の役割」を中心に、北海道教育庁生涯学習局生涯学習課の舟木誠課長同席のもと、松井晃之主幹より「どさんこアウトメディアプロジェクト」の制度説明や「子ども朝活事業」、「地域人材による家庭教育支援推進事業」などの情報提供をしていただきました。

二 シンポジウム

「私たちは旭で生きて行く」 〜腑に落ちるくらしかた〜

はたらきかた

(株)Mイージー代表取締役

戸田 友介氏

戸田氏は、愛知県豊田市余平町(旧旭町)の旭地区に移住され、現在、奥様と子ども三人の五人家族で生活(活動)され、座右の銘である「天命に安じて人事を尽くす」のとおり、今で言うところの「地域おこし協力隊」の独自バージョンのような形で旭地区に入ったとのこと。

戸田氏は、大学生の頃、「大人になって、仕事をして、子育てをして、年を取って・・・」という暮らし方や、この先「どんな時代になり、どんな人生を生きるのか・・・」を考えるようになり、二〇〇三年四月に(株)Mイージーを起業し、若者が食と農の担い手になる仕組みづくりを始めたとのこと。

豊田市の旭地区は、人口約二八八〇人の小さな集落で、高齢化率も四三%を超える高齢化率の高い地域です。そこで、日本再発進「若者よ田舎を目指そうプロジェクト」に参加する形で二〇〇九年九月から三年間という約束で、旭地区に入り現在に至っているもので、その旭地区は豊田市の中でも一番大変な地域で「何

もない」地域だったそうです。(現在も同じ?)

その何もない旭地区で、全国から集まった十人が新しく里山暮らしを始め、農業コーディネーターの指導のもと生活(仕事)をはじめ、有機野菜の販売で収益を上げ、地域の二カ所でシェアハウスに居住(山里のホスピタリティ)。

地域の方たちの暖かい指導を受け「自分の気持が大きく揺れ」何とか地域に恩返しをしたい気持が強くなり、プロジェクト終了後も地域に残る決断をしたとのこと。

全国から集まった十人はその後、地域の期待に応えられない苛立ちや、メンバー内の対立などもありチームがバラバラになりそうな時期も経験し、①担当や畑を個人単位で分ける②週一回メンバーで食事ミーティングを開催する③月一回の地域交流会(飲み会)をとおし、じっくり自分たちに向き合う時間を作り、どうすればメンバー皆が生き残っているかを考えたそうです。

地域の方の「あんたらがいてくれるだけでうれしい」という声に支えられ、メンバー一人ひとりがやりたいことを合体(重ねたり・繋げ)させること。一回お金を稼ぐことを忘れ、「ここに住んでいたい人を大切にすること」や「自分のやりたい暮らしを追求すること」に集中するこ

とにより、なによりも自分の腹が据わると周りの人との関わりがダイナミックになり、当初のメンバー七人と、自分の子ども三人を合わせ、十人となり、実質的には、旭地区に移住した人数が移住した形となった。



紙面の関係で全ては紹介できませんので、いくつか私の心に残っている言葉をご紹介します。

- ◇ 「お金があるとできないこともある。」ことに気付く。
- ◇ 自分ごとで生きられる。稼ぎは後から入ってくるもので、何とかなる。
- ◇ 過疎の地域には仕事はある。人口減少で、仕事をする人が少なくなるだけで、仕事がない訳ではない。
- ◇ 田んぼは毎年管理している人がいるから田植えができる。これは、地域づくりと似ている。
- ◇ 森林管理はやり方次第では儲かる。自分の好きな時間で木を切り、それを売る仕組みをつ

- ◆ 軽トラックも一人二万円を持ち寄り二十数名で、電気自動車に改造してみた。(試作品)
 - ◆ お寺の場所だけ指定して、店や出品準備は各自任せて準備も後片付けも不要なイベント開催。
 - ◆ スモールビジネスを沢山立ち上げ、繁げたり、重ねていくことで仕事が増えていく。
 - ◆ 戸田氏は旭地区の消防団にも加盟し、その同じメンバーで将来は老人クラブ加入を目指す。
 - ◆ 旭地区の新聞配達をする人がいなくなり、その仕事も仲間を増やし請け負った。
 - ◆ 旭地区のカレンダーを作り、新聞に折り込み、まちづくりを盛り立てている。
 - ◆ 戸田氏の子どもの世話もお隣のお婆ちゃんがしてくる。(保育所はあるとのこと)
 - 田舎暮らしに必要な、六つのキーワードと大切にしたいことを紹介します。
- 【キーワード】
- ① 「稼ぐ↓働く」
 - ② 「売る↓使う」
 - ③ 「ひとつ↓重ねる」
 - ④ 「効率↓文化」
 - ⑤ 「計画する↓委ねる」
 - ⑥ 「する↓ある」(居場所をつくる)



【大切にしたい営み】

- ① 柔軟に変化しつづける営みであること。
- ② 一人ひとりから出発する営みであること。
- ③ 働くこと自体が、一人ひとりの居場所となる営みであること。
- ④ 弱さに寄り添える、誰も見捨てることのない営みであること。
- ⑤ 心地よく委ねることができると。

戸田氏はこういうことも仰っていました。「三百万円以内に収入を抑える」それは「お金に自分の人生を託したくない」ということ。

仕事が増えたら、分け合い手放す。そして、若干余裕を持ちながら暮らしていく。それが戸田流の暮らしの哲学だと感じました。



仕事が増えたら、分け合い手放す。そして、若干余裕を持ちながら暮らしていく。それが戸田流の暮らしの哲学だと感じました。

「公民館の姿・公民館と地方創生を考える」

文部科学省生涯学習政策局 社会教育課補佐 佐藤 秀雄氏

佐藤補佐には、公民館職員等を対象にしたファシリテーション研修をお願いし、ファシリテーターの役割や目的、必要とされるスキルの説明とともに、実際にファシリテーション技術を社会教育にどのように活かしていくか?について説明をしていただきながら、実際に五つのグループに分け、「わが町の公民館(社会教育事業)の良いところ」や「より良い公民館活動(社会教育事業)を進めていくための方策とは?」をテーマに研修を行いました。

その様子については、次のとおりです。

三 熟議・ファシリテーター研修

「公民館の姿・公民館と地方創生を考える」

北海道公民館協会主催による、全道公民館協会市町村長等研修会が去る七月十三日札幌市内「かである2・7」で、約二十八名の首長等の参加を頂き開催されました。

四 北海道公民館首長研修会開催

今回の研修会は、協会としても初めての試みとして、北海道公民館協会に加盟して頂いている市町村長等を対象に実施されたもので、地方創生が叫ばれている昨今、総合戦略の策定などが各自自治体で始まるなど、様々な挑戦が始まっており、昨年度から教育委員会制度も変更されたこともあり、首長はこれまで以上に教育に関する重要事項を教育長、教育委員と協議する形になりました。

こうした流れを受け、公民館協会加盟の市町村長に研修会開催を呼びかけ研修会を開催したもので、数年後には、こうした公民館振興に理解のある首長が毎年集い、研修会の繋がりを一歩進めた「首長部会」としての組織化を図り、北海道や国に対して政策提言できるようになれば・・・という思いを、北海道公民館協会理事(出口北大学務部長)より説明をさせていただきました。

こうした研修会が毎年継続して開催され、そして参加首長等の輪がさらに広がっていくことを願っているところです。

また、研修会終了後には、情報交換会として懇親の場も設けられ、道教委柴田教育長様や杉本教育部長様にもご出席頂き、活発な情報交換をすることができると、初回となった首長研修会の目的は達成できたと考えております。



「地方創生と社会教育」

特定非営利活動法人

教育支援協会

代表理事 吉田 博彦氏

この度の研修については「地方創生と社会教育」や「地域の元気な人づくりを」テーマに開催しましたが、吉田先生いわく「一肌脱ぐ人をつくる」こと。しかたないけど、あなたに頼まれたらやるしかないといった「仕方が無いけどやる人をつくる」ことだと言いました。

また、「言葉とイメージを合わせることも重要」であり、これは、本質をついていると実感しました。公民館協会で設定した「地域の元気な人づくり」。そんな元気な人がいた

ら気持ち悪い。仕方が無いけどやる、しがらみがあるからやる。

つまり「主権者」を作ることが大切だということ。例えば「ニコニコ笑顔で税金を払う人はいない」ということであり、綺麗ごとではなく物事の本質や日本人の持っている本質、心を揺さぶるような言葉や人間関係の構築が大切であり、そのことが「社会教育の分野」であり、地方創生の時代にあつてはこうした社会教育が果たす役割が益々重要になっていくと仰っていました。

吉田先生は、約二時間に渡り、実質四時間で学ぶ内容を講演して頂きました。そのため、講演の中でどのような話題が出されたかについて簡単に紹介いたします。

なお、研修会には、全国公民館連合会から上村事務局長と慶野事務局次長も同席され、後日講演記録を公開することになっておりますので、そちらで詳細をご覧頂きたいと思えます。

【講演のポイント】

① 地方創生問題の概要

日本の将来推計人口、日本創生会議の報告などの人口推計や、江戸時代から現代までの人口の推移についても説明。

② 地方創生問題の現状

地方に仕事をづくり、安心して

働けるようにする。

地方への新しいひとの流れを作る。(短大は、その地域に必要な人材を育てるが、大学を卒業した学生は都会に流出する。)

③ 地方創生と社会教育の課題

地方創生の基本課題は「地域づくり」と「人づくり」であり、これは、社会教育最大のテーマである。

④ 消滅可能性都市問題の考察

秋田県問題(全国学力調査でトップ級の成績をとっているが、秋田県の自治体の大半が二〇四〇年までに「消滅可能性都市」と指摘されている。

⑤ 社会教育の原点

寺中作雄氏の言葉を紹介(戦後の中、皆が気を合せて働き、楽しむ「たまり場」が必要で、それが「公民館」のはじまり社会とは何なのか。人が多くてもそれは社会ではない。個々人の行為の関係性がないと社会とは呼べない。相互に影響しあう

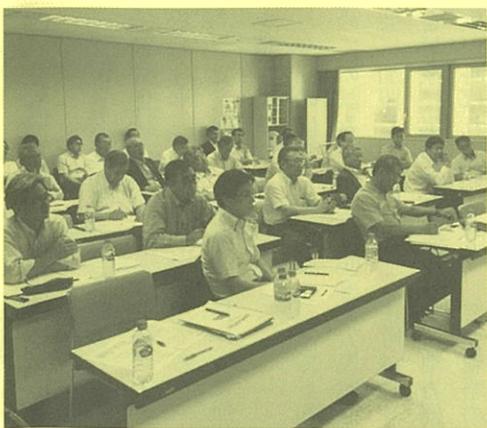
複数の関係性が社会である。

地域社会というものは、「地縁関係」に基づく集団が形成するもので、仕組みや関係性の総体に村や町のあり方が安定したことで形成された。

地域の中心には神社があり、氏子としての帰属意識を持ち、先祖代々の付き合いが生まれた。

※社会教育の使命

「純粹な社交(交流)の場」公民館が大切。人が目的のために集まる場所ではなく、人と会うことを目的として集まる場所で、人間が相互に認め合う場所。そうした場所を作るのが重要である。・・・まだまだ紹介しきれませんが、吉田先生の独特の技術により、参加者の心に響く研修になったと確信しております。



「まちづくりの
ビジョンと責任」

公益社団法人全国公民館連合会

会長 石川 正夫



北海道のみなさん
こんにちは！
今年度がはじ

まってももなく2016熊本地震が
発生し、熊本県と大分県を中心に九
州地方で大きな被害をもたらしまし
た。被災地となった公民館も多数の
被害を受けました。衷心よりお見舞
いを申し上げます。

そして、六月に行われた本連合会
の総会で、熊本県公民館連合会と大
分県公民館連合会から、被災に対す
る全国のみなさまからの支援につい
てのお礼と、今後の復興への取り組
みについて決意が示されました。こ
のことは大変心強いことで本連合会
としても両県公連と連絡を密にして、
事業をバックアップしていきます。

その後、熊本県と大分県を訪問し
たところ、みなさまから、さまざま
な話を聞くことができました。大変
な状況であることは確かなのですが、
各地のみなさんが支えあい、希望を
持って日々の活動に取り組んでいる
こと、そしてこういうときだからこ

そ、県公民館大会をはじめとした例
年どおりの事業を県公連が実施した
いという決意を聞いたことは心強く
感じたところです。また、私が訪問
することで大変勇気づけられたとの
言葉をいただき、全国組織の長とし
て、改めて全国の公民館からの大き
な期待を再確認しました。今後も期
待を込められるように前進していま
ります。

さて、総会では、北海道公民館協
会の川上会長に本連合会の北海道地
区代表として理事にご就任いただき
ました。今後は本連合会の事業推進
にご協力をいただきたいと願ってい
ます。

さらに、及川事務局長からお知ら
せをいただいた「北海道公民館協会
市町村長研修会」が、七月十三日に
開催されました。

当日は、出口寿久理事から「北海
道公民館協会首長研修会の今後の姿」
について協会からの提案がありまし
た。そのなかで戦後の我が国を支え
た公民館が「産業振興も含めて大き
な役割を果たし、地域活性化の中核
となった」と示されました。このこ
とは多くの市町村長が描く「まちづ
くり」のビジョンを達成する上で、
とても大きな力となるに違いないと

考えています。

今回の首長部会の詳しい内容は本
紙で紹介をされているのでそちらを
ご覧ください。また、当日の様子を
全国公民館振興市町村長連盟で後日、
動画配信(YouTube)する予定と
のことなので、そちらも合わせてご
確認ください。

公民館振興を推進する上で、自治
体の責任者たる市町村長の大きな力
は、さらなる追い風となって、健全
な地域社会の発展につながっていく
ものと確信しております。今回の北
海道公民館協会の活動に大きな感謝
の気持ちを表します。

おわりに全国公民館振興市町村長
連盟を紹介いたします。昭和四十
四年に発足しました。遡ること三年
前、昭和四十一年に山形県において
有志の町村長が公民館振興対策につ
いて市町村長の組織の必要性が論じ
られました。その設立趣意書には次
のように書かれ、今回の北海道の動
きに通じると思えますので、ご一読
ください。

【設立趣意書】

公民館が市町村における社会教育
のセンターとして、国政ならびに地

方自治の上にも果している役割りの重
要性は他言を要しない。国政ならび
に地方自治の基礎を強化する上に為
政者はこの問題に重大な関心と積極
的な施策をもたねばならない。しか
るに国ならびに地方自治体の行政施
策の姿勢は必ずしもこれに対応して
いないうらみが多い。

すなわち、公民館の施設の整備な
らびに職員の充実のための行財政措
置が確立されていないことはまこと
に遺憾であるのみならず、殊に近年、
公民館の建築費にたいする少額の補
助予算すら削除の危機にあることが
伝えられるに及んでは、公民館の前
途まことに憂慮にたえないものがあ
る。

一方、市町村においても、国の施
策の不備にともなう、特別の市町
村以外は公民館の振興に対して消極
的であり、財政のしわ寄せは社会教
育の停滞を余儀なくしているのでは
ないかとみられる。

このときにあたり地方自治の重責
を負う全国の市町村長にたいし、公
民館の重要性をあらためて強調し、
志を同じくする者が一丸となって公
民館振興のため組織的運動を実施し
ようとするものである。

昭和四十四年十二月三日(了)

平成28年度 北海道公民館協会役員一覧

役 職	支部	氏 名	市町村名	職 名	役 職	支部	氏 名	市町村名	職 名
会 長	日高	川上 満	平 取 町	町長	常任理事	日高	中村 敏	新ひだか町	社会教育課長
副 会 長	上川	仙石 徳志	名 寄 市	公民館館長	理 事	上川	鳥毛 昭士	東 神 楽 町	地域の元気づくり課長
副 会 長	後志	飯田 憲司	真 狩 村	教育長	理 事	網走	吉村 学	網 走 市	社会教育課長
副 会 長	胆振	及川秀一郎	安 平 町	教育次長	理 事	釧根	竹が原浩司	白 糠 町	社会教育課長
副 会 長	釧根	宮下 誠	釧 路 市	生涯学習次長	理 事	胆振	竹下 善人	豊 浦 町	生涯学習課長
常任理事	上川	吉田 等	富 良 野 市	社会教育課長	理 事	札幌	出口 寿久	札 幌 市	北海道大学学務部長
常任理事	渡島	佐々木昌子	鹿 部 町	生涯学習課長	理 事	札幌	内田 和浩	札 幌 市	北海学園大学教授
常任理事	胆振	武永 真	白 老 町	教育課長	理 事	後志	早瀬 良樹	寿 都 町	寿都町前教育長
常任理事	網走	相澤 秀雄	紋 別 市	生涯学習課長	監 事	上川	阿部 孝浩	旭 川 市	公民館事業課長
常任理事	釧根	餅崎 幸寛	根 室 市	社会教育課長	監 事	後志	福坂 正幸	俱 知 安 町	社会教育課長

平成28年度 北海道公民館協会支部事務局所在地

支 部	郵便番号	所 在 地	名 称	電話番号
後 志	048-1611	真狩村光4-1	真狩村公民館内	0136-45-3336
胆 振	059-0906	白老町本町1丁目1-1	白老町公民館内	0144-85-2020
渡 島	041-1403	鹿部町字宮浜311-2	鹿部町公民館内	01372-7-3124
上 川	076-0018	富良野市弥生町1-2	富良野市中央公民館内	0167-39-2318
オホーツク	094-0006	紋別市潮見町1-4-3	紋別市中央公民館内	0158-24-2270
釧 根	087-0006	根室市曙町1-40	根室市教育委員会	0153-24-3188
日 高	056-0014	新ひだか町静内古川町1丁目1-2	静内公民館内	0146-42-0075

平成28年度 北海道公民館協会加盟市町村名

支 部	市 町 村 名				支 部	市 町 村 名			
後 志 3町3村	寿都町 留寿都村	真狩村 余市町	泊村 倶知安町		上 川 4市17町 2村	旭川市	士別市	名寄市	富良野市
渡島檜山 7町	知内町 森町	七飯町 八雲町	鹿部町 松前町	奥尻町		東神楽町	上富良野町	美瑛町	
胆 振 5町	豊浦町 壮瞥町	白老町 安平町	厚真町			中富良野町	占冠村	南富良野町	
釧 路 根 室 2市10町 1村	釧路市 標茶町 根室市 中標津町	釧路町 弟子屈町 別海町	白糠町 鶴居村 標津町	浜中町 厚岸町 羅白町		東川町	鷹栖町	愛別町	上川町
網 走 3市4町	網走市 斜里町	北見市 訓子府町	紋別市 置戸町	遠軽町	当麻町	比布町	和寒町	剣淵町	
					下川町	美深町	中川町		
					音威子府村	幌加内町			
					日 高 6町	新ひだか町 様似町	新冠町 えりも町	平取町 日高町	
					直 接 加 盟	札幌市	恵庭市	千歳市	利尻富士町
						栗山町	奈井江町	浦幌町	中札内村
						大樹町	更別村		

※加盟市町村数78市(12市58町8村)6月末現在

◆北海道公民館協会所在地

〒060-0002 札幌市中央区北2条西7丁目
 北海道立生涯学習推進センター(通称:かでの2・7) 9階
 TEL・FAX 011-271-2825 VOIPTEL 050-3338-4370
 dou-kouminkan@crocus.ocn.ne.jp

◆社団法人全国公民館連合会所在地

〒105-0001 東京都港区虎ノ門1-16-8 飯島ビル3階
 TEL 03-3501-9666 FAX 03-3501-3481

道教委通信

「早寝早起朝ごはん」国民運動が今年、十周年を迎えました

子どもたちが健やかに成長していくためには、適切な運動、調和のとれた食事、十分な休養や睡眠が必要です。

しかし、最近の子どもたちを見ると、「よく体を動かし、よく食べ、よく眠る」という成長期の子どもにとって当たり前で必要不可欠な基本的生活習慣の定着が十分とはいえない状況にあり、このことは学習意欲や体力、気力の低下の要因の一つとして指摘されているところです。

食事や睡眠など、家庭における子どもたちの生活習慣の乱れは、個々の家庭や子どもだけの問題として見過ごすことのできるものではなく、社会全体の問題として取り組むべき重要な課題です。

そのため、文部科学省では、「早寝早起朝ごはん」の励行など、幼児期からの基本的生活習慣の確立を目指して平成十八年度から「子どもたちの生活リズム向上プロジェクト事業」を開始しました。同時に、この課題を国民一人一人が自分ごととしてとらえ、具体的な取組を推進することを目的に、その母体となる「早寝早起朝ごはん」全国協議会(会長・

有馬朗人元文部大臣)が設立されました。

なお、この全国協議会は、子どもたちの健全育成に関心を持つ企業や団体等によって構成されており、その会員数は本年六月現在、二九七七者のほり、各地域で様々な活動が展開されています。



北海道における取組

道教委では、現在「朝食をとらずに登校する子をゼロに」を目標に掲げ、学校・家庭・地域と連携した早寝早起朝ごはん運動を展開し、子どもたちの生活リズム向上に取り組んでいます。

国民運動が始まった平成十八年度には、企業等と道教委が相互に協力して家庭教育の一層の推進を図る「北海道家庭教育サポート企業等制度」をスタートし、企業とともに子どもたちの生活リズム向上に努めてまいりました。締結企業数は、現在二〇〇社を超えており、今後も企業等

とともに取組の充実を図っていきます。

また、平成二十年度からは、道・道教委職員の子どもを対象とした夏休み企画「早おき・職場見学デー」や道庁特設コーナーでの「早寝早起朝ごはん運動推進パネル展」の継続実施、さらに平成二十三年度からは生活リズムチェックシートの開発と普及、平成二十六年度からは、PTA、校長会、企業等と連携し、インターネットの利用も含めた子どもたちの望ましい生活習慣の定着を図る「どさんこアウトメディアプロジェクト」を推進しています。

しかし、これらの取組を道内で根付かせていくためには、住民自身が子どもたちの生活習慣に関心を持ち、当事者意識を持って解決を図っていくことが必要であることから、今後とも住民の最も身近な学びの場であり、地域の課題解決の中核を担う公民館の皆様とともに「早寝早起朝ごはん」運動の充実を図ってまいりたいと考えております。

(文責 生涯学習推進局生涯学習課)

事業のご案内

○「課題対応型学習活性化セミナー」
趣旨

地域住民が、現代課題への関心を高め、その課題解決に向けた主体的な行動を促す学習活動を活性化するために、他機関や団体等との連携・

協力を含めた具体的な方策に関わる専門的な知識や技術の習得に関する研修を行います。

日時・会場

平成二十八年九月一日(木)
二日(金)
道民活動センターかでの2・7

○「生涯学習推進基本講座」
趣旨

人づくりと地域づくりに資する生涯学習を推進するための体制整備としての計画策定・評価及び事業企画に関する基本的・実務的な知識や技術などについて理解を深めるための研修を行います。

日時・会場

「道央会場(岩見沢市)」
平成二十八年八月二十五日(木)
空知総合振興局会議室
「道南会場(新ひだか町)」
平成二十八年十一月十八日(金)
新ひだか町公民館

○「生涯学習推進専門講座」
趣旨

人づくりと地域づくりに資する生涯学習を推進するための体制整備としての計画策定・評価及び事業企画に関する専門的な知識や技術などについて理解を深めます。

日時・会場

平成二十八年十一月五日(木)
六日(金)
道民活動センターかでの2・7